

2016 年度研究会日誌

月/日	報告内容	報告者
(2016)		
6/7	研究会 テーマセッション「オリンピックと社会正義」報告 「オリンピックと社会正義」協働からの学び —短期での共著完成、アウトリーチ活動（国内、国外）および課題—	鈴木 直文 中村 英仁
7/12	研究会 スポーツと「多様性」をめぐる —科研費共同研究の展開へのプレインストーミング—	尾崎 正峰
7/19	ゲスト研究会 住民による都市公園の管理運営はスポーツ利用の拡大をもたらすか？ —練馬区みんなの広場公園でサッカーゴールの設置が認められるに至った条件—	堂免 隆浩
7/26	研究会 メディアに映されるスポーツの諸問題へのアプローチ 「レジャー・プアー」と「時間貧困」の相違点と課題の検討 山本夏生（一橋大学大学院博士課程） 青野桃子（一橋大学大学院博士課程） 占領期の日本における駐留米軍とスポーツ —アメリカンフットボールとタッチフットボールを中心に— 熊澤拓也（一橋大学大学院博士課程） 第4回アジア競技大会と日本 富田幸祐（一橋大学大学院博士課程）	
10/11	研究会 制度的環境がスポンサーシップ関係に与える影響—日本の事例の分析— 2020 東京大会オリンピック・ゲームス・インパクト（OGI）の現状と課題	中村 英仁 坂 なつこ
11/22	研究会 「スポーツと社会的排除/包摂」再考 —東京 2020 とダイバーシティ・カップを手掛かりとして— GHQ 占領下における剣道&サンフランシスコ調査のことなど	鈴木 直文 坂上 康博
12/13	研究会 「時代経験」を遺す—『多摩「社会体育」史』構想の模索—	尾崎 正峰
12/20	研究会 利用者の要望でスポーツ施設が設置されることは、スポーツにおける 「公共性」の構築につながるのか —新潟市の事例からの考察— 西山裕美子（一橋大学大学院博士課程） 「障害者」のスポーツ活動において「場」が問題となるとき 川田幸生（一橋大学大学院博士課程） The Creative City Paradigm Applied to the City of Tokyo: Opportunities and Threats Luca Manisera（鈴木ゼミ 短期留学生） 労働組合日本プロ野球選手会の労使交渉過程 —「プロ野球構造改革協議会」を中心に— 阿部武尊（一橋大学大学院博士課程）	
(2017)		
1/24	研究会 民俗舞踊の近代化と競技化 —なぜ『エイサーコンクール』は『エイサー祭り』になったのか— ゲスト研究会 グローバルスポーツの現在 —トップスポーツをめぐる新たなシステムの創出と国際的展開—	岡本 純也 阿部 篤志
2/15	研究部総括・方針	研究部